

第2回 安来市総合計画審議会 議事要旨

1. 開催概要

日 時 令和7年2月28日（金）14：00～16：00

会 場 安来市役所安来庁舎 3階 防災対策室

出席者 以下のとおり

【審議会委員（出席：14）】

（敬称略）

所 属	役職	氏 名	区分	備考
学識経験者		勝部 慎哉	学識	
島根県立大学	准教授	高須 佳奈	学識	
学識経験者		野々村 千映子	学識	欠席
米子工業高等専門学校	准教授	川戸 聡也	学識	
安来商工会議所	事務局長	渡部 仁	産業 （商工）	
島根県農業協同組合やすぎ地区本部	企画総務部長	矢田 篤	産業 （農業）	
社会福祉法人 安来市社会福祉協議会	副会長	小松原 勝之	医療・福祉	
安来市自治会代表者協議会	会長	岸川 勉	市民団体 （自治会）	
安来市労働組合協議会	議長	松田 英樹	労働団体	
安来市観光協会	会員	醍醐 靖幸	産業（観光）	欠席
一般社団法人 安来青年会議所	理事長	宇山 賢二	産業	
安来市子ども・子育て推進会議	委員	角 陽子	市民団体 （子育て）	欠席
安来市 PTA 連合会	家庭教育委員長	多胡 順子	市民団体 （教育）	欠席
やすぎボランティア団体ネットワーク	会長	板持 潤一	市民団体 （NPO）	欠席
松江公共職業安定所安来出張所	所長	中村 明臣	官公庁 （労働）	欠席
安来金融会	幹事	小川 俊一	金融機関	
株式会社山陰中央新報社	米子総局長	藤井 満弘	言論	

一般公募		寺田 琢磨	一般	
一般公募		石田 優美	一般	
一般公募		中村 高志	一般	

【事務局】

部 署	職 名	氏 名	備考
安来市政策推進部 政策企画課	部長	宇山 富之	
〃	課長	松崎 理泰	
〃	係長	吉原 秀和	
〃		清水 仁志	

【委託事業者】

会社名	氏 名
株式会社エブリプラン	森田俊作、鶴見太郎、北本琉士

2. 議事次第

- 1) 開会
- 2) 会長あいさつ
- 3) 議事
 - (1) 人口ビジョン（案）について（報告）【資料1】
 - (2) 第3次安来市総合計画基本構想の方向性について（意見交換）【資料2】
- 4) その他
- 5) 閉会

3. 配布資料

- ・ 次第
- ・ 審議会委員名簿
- ・ 【資料1】人口ビジョン（案）について（報告）
- ・ 【資料2】第3次安来市総合計画基本構想の方向性について
- ・ 【資料3】第3次安来市総合計画策定に向けた市民意識調査結果(詳細版)について
- ・ 【資料4】地域幸福度（well-being）指標分析資料
- ・ 【資料5】市民アンケート・関係者ヒアリングの意見等
- ・ 【資料6】過去の計画等における理念・キャッチフレーズ等
- ・ 【資料7】今後のスケジュール

4. 議事

1) 開会

2) 会長あいさつ

3) 委員紹介

4) 議事

事務局より、議題の各項目を資料に沿って説明を行った。

(1) 人口ビジョン（案）について【資料1】

<質疑応答>

発言者	発言の要旨
委員	昨日別の会合に出てきまして、現役世代何人で高齢者を支えるかという指標で、確か1995年は4人で1人を支えるのが、2025年では、2人で1人を支えるような状況になっていると聞いています。安来市の場合、このまま行くと2060年の段階では高齢者の方と生産年齢人口の割合はどのくらいになるのか。何人で何人を支えなきゃいけないかというのは日本全体の話ですが、安来市においても、現在の人口を見ると、15歳までと65歳以上を達した年齢と15歳から64歳の人口がほぼ同じぐらいの数字になっています。高齢者はこれから減っていくと思いますが、出生数も減っていて、人口全体がここまで減った場合、安来の労働者が何人で、高齢者を支えないといけないみたいな数字はないですか。
事務局	17ページや33ページに年齢構成の推移を載せています。
委員	生産年齢が半分を切ってしまうような将来像になってしまいますね。そうすると、今いろいろな計画を練っているものが、人口を維持しようということをやってその数字ですので、もっと町をスリム化していかないととても支えきれない社会になっています。いろいろな計画を今後盛り込んでいくと思いますが、縮小した段階を見据えた計画にしていかないと、今のものを守っていこうということで進めたら、同じことの繰り返しになるのではないかと思います。この青い線を赤い線に保とうとしているのも、下手すれば青い線のまま行ってしまうと思います。今度のビジョンの見直しですが、基本構想にあたってもうすでに練っておられますが、その厳しさというのを住民に共有し、「頑張ってください」という目標の方に力を入れすぎるのではなくて、現状に即したところでの計画に近づけた方がいいのではないかと思います。
会長	2070年では0.3人で1人を支えるという非常に厳しい状況だと市の行政の方も分かっており、そうならないように少しでも人口維持をしたいということで、目標設定がされていると考えます。けれどももう少し現状に即

	した方がいいのではないかというご意見だったと思います。大変厳しい状況ですから、今後の施策の中でも人口が1人でも2人でも増えると言いますか、減少率を抑えると言いますか、そういう施策が大事だと思います。
--	---

(2) 第3次安来市総合計画基本構想の方向性について【資料2】

(3) 意見交換

<質疑応答>

発言者	要旨
委員	安来市の方々の中で、人口低下の維持を少し和らげたいという目標があって、その中でどこを重視されたいのかをお聞きしたいです。例えば、産業振興を1番重要視して住民の所得を上げることをしていくのか、子育てがしやすいとか、あと未婚女性が多いというのが出ていましたので、結婚率を上げていきたいのか。やりたいことは沢山あると思いますが、その資源が限られている中で、どこを1番重視してやっていきたいのかというのは何かありますか。
事務局	最終的な総合計画は、委員の意見も踏まえながら決めていこうと考えていますが、現時点で重要だと思われることとしては、やはりある程度の所得がないと人が住まないと考えていますので、まずは雇用の場を確保していきたいと考えています。雇用の場もただ設けるのではなく、できればいろいろな分野での雇用の形態とか。今力を入れているのは、例えば若者とか女性が働きやすいような、多様な働く場を作ることで人が住んでいただけるのではないかと思います。住んでいただいて、あとは子育て支援や結婚支援で人口を増やしていきたいと考えています。総合計画にはいろいろな分野で事業を載せていくこともあると思いますが、最終的には皆さんのご意見を聞きながらクリアできたらと思います。
委員	そのキャッチフレーズにしても前回の分は、人が集うとかものづくりとか文化とかいろいろあるとどうしても難しくなるので、ものづくりだったら雇用、産業振興だったらそこにワンフレーズだけでもいいぐらいと個人的には思っています。令和8年から10年間やっていき、次の10年で収入がある程度生まれた人たちに子育てがしやすいよう段階を踏んで1つずつ、10年ずつやっていくのがいいかなと思いますので、その辺りは基本構想を考える際に検討いただけたらと思います。
会長	あれもこれもではなくある程度絞ってやっていこうと、キャッチフレーズもそれに特化したものでいいのではないかというご意見でした。 その他、いかがでしょうか。
委員	3つの候補案を見せていただいて、安来は地域性として、本当に真面目で保守的と私は感じています。先程も言われましたが、もう少し危機感を

	持って強い発信というか、キャッチフレーズとかが流れていくようなものではなくて、もう少しインパクトがあり刺さるような少し強さがあってもいいかなと思います。それを踏まえると、自分が思うには、なんとなく少し強い言葉というのは、案の2の挑戦という言葉。もう少し流れるような繋がりが幸せを作る、安らぎとか安心安全みたいなところも凄く大事かもしれないですが、危機感を持って次の10年で何かに向かわないと、この目標とされている数値も達成できないと思いますし、インパクトが弱いと思いました。
会長	ありがとうございました。インパクトの強い、そういったキャッチフレーズが望ましいということですね。
委員	私もキャッチフレーズや方向性についてですが、行動するきっかけということで共有していく部分も踏まえまして、案の内容については、方向性はどれも大体入っていると思います。いろいろ考えた時に、どういう町にしていくなかを共有しようと思っても、なかなか同じところのゴールを皆さんが持っていない気がします。私としては、今回総合計画でやることは、何か面白いことをとか、常に新しいことをやろうとかいうような、行動の部分と言いますか、アクションに関する部分のキャッチフレーズみたいなものが入っていると、共有しやすい面があるのかなという部分で、ゴールをどれか1つに絞ると凄くおんぼらとしたような感じにはなるのかなと思いました。その辺はいろいろありますが、何か面白いことが起きそうだと感じさせてくれるような構想が入っているといいなと思いました。
会長	アクションに関するようなキャッチフレーズということですね。
委員	書いてある内容としては、こういう格好を目指したいなというのが9～11ページの方にまとまってきたかなと思います。キャッチフレーズ等は、今後ブラッシュアップしていくことがあると思いますので、まずは政策企画課の方で、例えば市民に対して「こういう安来市にしていきたいです」というようなものをまず真剣に伝え、市民公募で最終的に皆さんが目指すべきキャッチフレーズを決めていくようなプロセスがあると、全市民で1つのものを作っていく一体感が生まれるのではないかと思います。 それと、資料6で過去の計画やキャッチフレーズ等をずっと見ていましたが、こういうキャッチフレーズを作ると最初の方は、結構勢いがいいですが、これをずっと続けていく方が逆に難しいような気がしています。市民の中で覚えている人が何人いるかを突き詰めていくと、恐らくそんなにいないのではないかと思います。キャッチフレーズ、キャッチコピーというところで、安来市のブランドのトップみたいなのところを作ると、結構メーカーさんとかは、ロゴ1個のマーク1個を取っても、大きさ、色、字体を必ず

	守らないと使わせないといった厳しい管理もされますし、そのブランドに沿ったことはしないというような厳しい管理までされるので、そういったところも踏まえて、皆さんにまず浸透して広めるところまでを1つ考えた方がいいのかなという気がしました。
会長	キャッチフレーズとかそういったものを作る中のプロセスが進んで、市民の皆さんからもっと意見を寄せたほうがいいとか。
委員	こういうことを安来市は新しく考えたというのが出てきた時に、これに合うキャッチフレーズはどんなのがいいですかね。例えば、仮にその公募した際に、皆さんと一緒に決めるみたいなのが1つプロセスとしてあれば、一体感が生まれるのではないかなという気がします。
会長	プロセスの段階で、その市民から公募みたいな形でパブリックコメント等もそうかもしれません。一体感ができる取り組みが必要だということですね。
委員	自治会の代表者としてこの場に参加させていただいています。単年度なので、こういう場はなかなか難しいところもありますが、ちょうど1年ぐらい経って自治会など活動の様子を見ましたので、その点も絡めて少しお話させていただければと思っています。やはり自治会の活動としては、運動会や文化祭等が大きな行事になるのですが、コロナもあり中止の期間が長かったです。去年ぐらいからその前に戻そうかということで、いろいろ活動していますが、結局その間皆さん5歳、6歳と年をとったわけで、自治会の活動そのものが弱体化していき、運動会に参加できない、参加しない自治会が増えて、自治会活動そのものが難しくなっているなど感じています。この計画の中にも出ていく人と、入ってくる人という形で、いろいろアンケートもありますが、安来市のいろいろな魅力を発信して、留まらせるようなことをまずは重点的にやっていただいて、その上でよそから来てもらえるような方向性を出していく方がいいのかなと思っています。もちろん同時進行とは思いますが、どちらかといえば、安来に住んでいる我々が住んでよかった、ここにずっと留まりたい、子どもや孫たちにも住んで欲しいと思わせるような方向性を示していただければいいかなと思っています。
会長	コロナの影響もあり、なかなか自治会としてのイベント等は減少し、あるいはイベントをしても参加者が少なくなったということでございます。そういう意味では、流出人口をできるだけ抑え、流入人口を増やすような施策に力を入れてほしいということです。安来市の場合も流入より流出の方が若干多いですから、そちらの方でも減っていると思います。そういった点を考慮してほしいというご意見でした。 その他、いかがでしょうか。

副会長	私は今安来市に住んでおらず隣の松江市民ですので、少し横からの視点と、2月に自治体のプレイスブランディングの研究会に出たこともありますので、情報の提供という形でお話をさせていただければと思います。 まず、このキャッチコピーですが、ブランディングなのか、それともプロモーションなのかというのは分けて考えるべきだといろいろな研究会でも言われています。耳障りが良くて残る言葉は、プロモーション。安来を知ってもらう活動にも使えますが、おそらく今回そういったところでは少し違うのかなと思います。委員が仰ったように、厳しい現実を目の前に私たちが今後どうしていきたいのか、どういうふうに取り組んでいこうとするのかという、魂みtainなものを表現する必要があるのではないかなと研究会のことを思い出しながら話を聞かせていただいていたいました。例えばハーブという町の事例がそこで紹介されていましたが、ブランド戦略ではなく、あくまでも「自分たちがどうありたいのか」というポジションを伝えるものであるということがそこでも言われていました。その1つに、やる気を起こさせるような言葉が行政のキャッチコピーみtainな中には組み込まれていたというお話もありました。それと、ベルギーのゲントという町の事例もちょうど紹介されており、変わった人たちが集うゲントのまちでは、ゲントらしさ、魂として「自由な都市」や、「反骨精神」というような言葉を用いたりもしているようです。今お話したヨーロッパの事例は、又聞きみtainな形で、そこまで準備していなかったので申し訳ないですが、そういった意味で言うと、今まではどちらかというと、「耳障りの良い安来を目指しましょう」もしくは、「私たちがいる安来は良い場所ですよ」というようなことを伝えるメッセージが多かった。でも、そこに少し違和感を持たれる委員もいらっちゃって、市民がどう行動したいのかが見えるような形で、メッセージを作る必要がある。その大きな転換期にあるのではないかと思います。おそらく今の8ページのところで言うと、変化への対応、チャレンジというのは、今まであまり安来らしくはない部分だったのかなと思います。実際今後10年の計画ですが、10年どころか50年先を見た時にそうは言われてられないことをきちんと市民の皆さんと共有することが必要なのかなと思いました。正直、8のところは、例えばどちらかと言えば松江市っぽいような雰囲気もあります。同じことをするというのではなくて、そういうチャレンジが必要なんだというような、考えみtainなものをぜひ審議会の中では、逆に市民の方々のいろいろな目線で我々が提示をしていかなければいけないところなのかなと思いました。1つのご意見というわけではありませんが、改めてこの場で私たちが議論をすることで、市民の方に伝えていくべきことというのも何かあるかと思いました。
-----	--

会長	良い場所のイメージを抱くメッセージというのには、インパクトがあるもの、変化に対応していけるチャレンジ精神的なものにもキャッチコピーはインパクトのあるものがとご紹介いただきました。
委員	先程のお話も受けて普段から思っていることですが、やはり男性社会の中で決めていることが多いと思います。ここにも女性が2人しかいなくて、いろいろな資料を見させていただくなかで、女性が子供を産みたい、結婚したい、住みたいと思うか、女性が消費動向を決めていることが凄く多いと思います。ただ、こういう場で議論されるのは男性がほとんどで、女性目線を入れすぎるぐらい、入れても全然過ぎてないと感じることが多く、今の副会長の話も凄く参考になりましたが、そういう感覚を持って行政の取り組みや発信ももっとされていっていいのではないかなと思います。
会長	ありがとうございました。今日のメンバーも女性が2人なので少ない感じがしますが、女性目線のそういった意見が取り入れられるような場面が増えるといいなと思います。
委員	事務局の方に確認したいです。安来市内、安来関係の理念だとキャッチフレーズはまとめていただいています。例えば、松江や米子の他の自治体は調べているのでしょうか。今回、資料では安来関係のものを載せていただいて、現行計画もあり先程の内容も書かれているのですが、今後のことを考えるにあたって、海外の事例や日本国内で成功している事例を調査した上で決められたのか、あえてということもあると思いますが、全く見ていないのかどちらかなと思いました。
事務局	特にその他の自治体を調べたりはしていません。あえてと言った方がいいですね。
委員	これはおそらくどちらも正しいとは正直言えないと思いますが、極端に言えば他のところとは関係ないわけなので、安来独自でやるという例もあると思いますし、今のような会議や計画とかは、他の自治体でも当たり前に行っていることです。そういうことをやって成功している例と失敗している例、なかなか評価は難しいと思いますが、私個人の意見としては、成功している事例を参考にしてもいいのではないかなと思いました。この委員の方々もですが、ブランディングや専門家がいるわけではないと思いますので、その辺りの意見ですとか情報も参考にした方がいいのではと思います。
会長	ありがとうございます。成功している他の自治体をもし参考にできることがあればそういったものも取り入れてはどうかといったお話でした。先程少しお話をしましたが、群馬県は日本一流入人口が多いとテレビに出ていました。最後まで見てはいないですが、一部農家さんのことと、飲食店

	をされる方が出ていました。群馬県の場合は、都心に比較的近く施策の中では、収入の面でも手厚い補助があり、5年間で最初の3年間で150万、あと2年間で120万円でした。技術的なことは親身になって同業の方が一生懸命教えてくれたり、古民家の活動を皆さんされていますが、そういったものについてもやはり凄いなと思いました。最初から住むのではなくて、1回見に来て、あるいは1回住んでよければ住むのがいいみたいな段階的な方法で、群馬県の方も人が多いところと言っていました。14,000人ぐらいの町で川沿いの農村でしたが、逆に安来は海、山、川もありますし、自然環境ではもの凄くいいのではないかなと思いました。他の県とか市町村でもいろいろなことはされておられるなといった意見です。 その他、何かご意見ありますでしょうか。
委員	あえて5,000人を増やそうという意思は非常に大切なことだと思います。おそらく市役所の職員さんは内部で、本当に5,000人増やすのは難しいことではないか。けれどある意味チャレンジングな目標設定がされている。そのためには今まで手をつけてなかったところの領域に何か着手しなければならない。そういったものが反映されればいいのかなと思います。今ある安来市の観光資源とかありますが、それをうたったところでそんなに5,000人は増えないと思いますので、弱点は何なのかから立案されるというのではと思います。
会長	弱点は何かということを明確にする。そういう視点から、人口の減少率を抑えていくというご意見でした。
委員	今回意見交換が主だったので、基本構想の方向性を語る場と思っています。皆様のご意見をお聞きして、1番最初に委員が言われた総花的だとなかなか1つにすると成功しにくいのではないかとといったご意見があったと思いますが、私もこの資料を拝見させていただいて感じたところは、商業に行くのか、定住に行くのかをある程度絞らないと、やはり人口減少を止めていくことは非常に難しいのではないかなと思いました。一方で、まだ確定ではないかもしれませんが、出雲村田が切川に出てくる。そこで生産人口が本格稼働する10年後ぐらいには、1,000世帯の人口が一気に働く場ができる。その定住策が喫緊で対応できるかどうかのチャンスではないかなと思います。非常に変化が多い時期でもあるので、それがいい方に転ぶか悪い方に転ぶのか。委員のお考えや安来市の意見もあると思いますが、変化が目の前にある可能性が高いと思います。そこもやはりこの基本計画の初年度、前期、後期と分かれていますので、もしこういう場で、テーマを1つに絞り、少し時間を取ってお話しして、そこに前期の構想計画を結びつけるなんていうのも1つアイデアかなと思いました。まだ確定ではないですが、目の前でそのような大きな変化があるなかで、せっかくの

	意見交換会であれば、例えば 10 分間で、生産人口 10 世帯が増えるとしたら、そういうことができるようになってという話し合う意見交換があってもいいかなと思いました。
会長	ありがとうございました。今、委員の方から村田製作所さんの案件で 10 年後には 1,000 世帯ぐらいが増えるのではないかと予想であります。
事務局	出雲村田についてお話いただきありがとうございます。1,000 世帯ではなくて、1,000 人程度の雇用が生まれるという計画でおられます。我々としても、1,000 人お勤めになる方のうち多くの方に安来に定住していただきたいという思いは当然ありますので、それに向けて行っていきます。今の状況はまだなかなか決まっていけないので、こういった議論の場でお話をいただいてということです。
委員	私としては、意見交換会なのであんまり堅くならず、皆様のご意見が一応形になるのが今日の 1 番かなと思います。最初の 1 時間ぐらいは少し堅く感じたので、皆様のご意見がいろいろ出ると、アイデアが生まれるのではないかと考えています。いくつかそういう可能性があるものについても少し話ができたらいいなと思っています。
会長	地元では新聞にも出ましたし、まだ確定はしてないということですが、そうなった場合には 1,000 人ぐらいの雇用が生まれるということで、安来市の人口も増えるのではないかと予想されています。増える人口は、県外や海外からも当然考えられますが、そういったことも含めてご意見をいただき、その重要性を含むような施策が必要になってくると思います。
委員	産業の関係について、事務局が言われたように、いろいろな職業の多様性が凄く必要ではないかと私自身も感じているところですが、それに合わせて、やはり先程、委員も言われたように、定住対策をしっかりやってほしいなと考えています。昔、某会社の人から言われましたが、若い時に結婚された人たちは、子供が幼稚園ぐらいまでは安来でアパートで住み、家を建てるのであれば、米子か松江にということで、安来で働いていて安来でお金が出ているのに、それが市外の人に市外の方で流出して使われているのが少し勿体ないなと前から思っていました。実際、特に米子は行きも帰りも凄くラッシュになっているというのは、そういうことにも現れるのではないかなと思います。その中に家を建てようと思った時に、安来市に住みたいと思わせるような、他市にないようなことをしてほしいなと個人的には思っています。
委員	言い方が悪いですが、このキャッチフレーズはどこでも通用します。市役所の職員の方がどのくらい普段から雇用とかに夢を持っているのか。結局、我々は限られた資料で、一部分しか見ていないので非常に分かりづらいです。市役所の方などが考えていただけると本物に近づくのではないかな

	と思います。冊子を作って終わりにしたくないです。
会長	実際の施策を具体的にしていって中で実現していかないといけないし、大枠ができて、結果的に中身が充実しないといけないことだろうと思いますが、そういう意味では、どこでも通用するような言葉ではなくて、もっと的を絞った方がいいのではないかと思います。
委員	もし村田が出来たとして、委員が言われたように、子育て世代が家を建てる時にアパートではなく、一軒家になった場合は、家族だと思っています。元々安来に住んでいる方は、同居しているおじいちゃん、おばあちゃんが一緒だったり、例えば子供ができて保育園とかまでは待機児童が少ないとかはあると思いますが、小学校低学年の学童保育が核家族には絶対必要になってくると思います。先程ざくばらんにとのお話もありましたので、尖ったところで言うと、例えばこれから宅地をしていくようなエリアを設けて、そこでは学童や放課後支援が気安く受けられますとか、そこに住むと、塾みたいなのことを学童でしてくれて、学校以外でも教育の機会が田舎でも得られる環境があります、みたいなのもいいのではないかなと思いました。
委員	市外にいて家を建てるというので、例えば何が安来に足りないのか委員が言っていましたが、5,000人増やすのに1番ピンポイントのところは、結局、安来はお店がないとか、学校の問題や住環境、また子育て環境も影響すると思います。そういう現状とか課題が分からないと、ピンポイントの政策が出来ず、ゆくゆくは計画を組むときにそこが1番のポイントにはなってくると思います。それが構想のここにはないといけないということであれば、そこをもう少し掘り下げないと、多分ここじゃないかなということの過程で、例えば構想を皆さんに相談してやってみたらそこは別にどうでもいいみたいなことだったら、なんだったのだろうみたいなことになると思います。その辺の課題認識と言いますか、抽出というか、そういう部分は今後どんな感じなのかなと話して聞いて思いました。
副会長	ある程度の時間設定があると意見交換しやすいのではと思います。
会長	16時ぐらいまでは時間があると思います。基本的には最初の方が報告でしたので、2つ目の意見交換がメインです。基本構想の方向性ということですので、どうしてもおんぼらになってしまいます。今年度までの反省を踏まえて、新たな構想や計画が得られたという事実はあります。けれどもなかなか具体的にどんな施策をして、どうだったということが新しい委員の皆さんには多岐に渡っていますから分かりづらいです。ただ、基本的には構想や基本計画についても今年度までの評価を参考にしているなら原案が出ているとお考えいただければと思います。その上で皆さんに意見を

	いただきながら修正できるところは修正していきたいと思います。
副会長	まだ、余裕を持って意見交換ができるという意味では、自分の意見というよりも意見を刺激するための発言があってもいいのかなと思ったりしています。あくまでも基本構想で、今回はどういう方向性を分かりやすく見出すかみたいなのところですが、いろいろな計画をこの下にぶら下げていかれることを考えた時には、ここだけに注力しますという言語化は難しいのかなと思って聞いていました。というのも、いろいろな施策がこの人口を維持することに繋がってきてしまう。雇用の方があっても、子供が預けられなければそこには住めませんとか、子育て環境を整えても、働く場所がないから違うところで働きますとか、いろいろなことが繋がってきてしまうので、どれかに絞るという議論はここでは難しいのかなと思っています。一方、面白い視点で、安来の方の話を聞きたいと思ったのが、どなたが仰ったのか忘れてしまいましたが、安来の1番弱いところは何がというような話は気になるなと思いました。今私は松江の大学に勤めていますが、実は安来出身の学生さんが結構いらっしゃいます。たとえ隣町といえども松江の大学に通うのに嫌々ながらJRで通っているけど、車で通えるのであれば実家から通っていたのというような声を聞いたりします。距離的には通えるけど、通う手段が貧弱なところには、少し不満もあったりとかして、他に話を聞いていると、バイトは松江駅前ですんでいますみたいな話しとかもあります。安来であまりバイトするところがないのかなと思っていましたが、バイトしている人ももちろんいますし、多分同じような構造が米子の方の大学とか専門学校に通う子たちにも起きているのかなと気になるなと思っていました。
会長	ある意味そういったところは弱点だと。

資料4について補足説明

<質疑応答>

発言者	発言の要旨
委員	先程、副会長にもいろいろなお意見をいただいて、金融機関的な目線で言いますと、このSWOT分析をしっかりとしてもらって、1ページ、13ページにまとめていただいています。一般の企業さんにアドバイスする時は、このSWOT分析のsoのところでは強みがある、機会がある。ここに集中して、いろいろなところのアイデアを出してよくしていただいたというのが多いので、ぱっと見ますと、このsは自然景観なのですが、soがちょうど住まいとか、住民を増加させるところにも繋がりがやすいキーワードが少し多いかなと思いました。このアンケートを事前に拝見させていただいたら、人と人との繋がりは強みでもあるし、逆にその繋がりが強すぎるが

	故に住みにくいのではないかという意見も確かにその中にあります。今回決めるその基本構想の中で例えば住居とか、そっちの方だけにはいけないですが、喫緊の課題であれば、私としては、商業施設を増やすということを今から考えるよりも、ここに住んでもらえるにはどうしたらいいか、その環境として、米子や松江という商業があるところを引っ張ってくるのではなくて、活用しながらできる。そうすると安来に住んでいた方が便利と思っていただけるような施策だと、この so のところにヒントがあるような気がして、先程もその変化がありますと言いましたが、道路の変化もありまして、もちろん今、安来市さんが荒島線とか作っておられます。県の協力も得ながらいろいろなインフラを整備されていますが、一方で、側道沿いの道は、松江から安来までは凄く便利な側道が令和 10 年ぐらいにはできる。東出雲のところは松江から安来までが直通で、ほぼ信号なしでいけるようなインフラができるのが 3 年後。3 年後って結構変化が大きい土地で、この so 分析のところにもかかってきて、人を呼び込む為には、実際にはこの so 分析を活用してアイデアを出すというのも 1 つ手かなと思います。今日の場合は基本構想なので、その 1 個に絞ってどうこうという議題ではないですが、今までの委員のお話を集約すると、ちょっとあまりにも総花的だと少しぼやけちゃって何かわからない。何個かあるうちの 1 つ、3 つあるうちの 1 つ尖らせようと思うと、この so 分析を使って尖らせるところを考えてもいいかなと思いました。
委員	先程、委員からありましたように、米子や松江にみんな出ていますが、その利便性は時間、距離がどうしてもあって、山陰道が有料のままだと皆さんが簡単に乗るのかなというの也有ります。毎日の通勤になると、普通車で松江や安来が 470 円、安来から米子までが 210 円。これを無料化にできないかと前から考えていて、米子の経済界の人にはその話をしたりもしています。実は、米子東から淀江までは、高速道路の公団が民営化した時に国と鳥取県がお金を費用負担し、無料道路にしているのですが、島根県は今まで買い取りはしておらず、全国の債務の超過負担の地域になってしまっているの、なかなか無料化するなんていうのはタブーの話でした。ただ、島根県の道路整備も益田から西以外はほとんど繋がるので、その辺の財政のことも国にも要望できると思うし、そのためには今度、タイミング的には公団の民営化とは違いますが、スマートインターは今整備されようとしているし、その村田製作所が進出するタイミングに合わせて、この無料化を訴えてもいいのではと思います。そのためには、やはり経済界が声を上げたりして動かさなきゃいけないなと感じていました。ただ、実際の安来に住んでいる方たちは無料化がいいと思っているのか、そうすると人がみんな出ていってしまう危機感を持っていて、9 号線がガラガラ

	になって困るみたいなこともあるので、実際に皆さんがどう思っておられるのかをお聞きしたいなと思っています。私は毎日松江から米子まで通勤で通っているので、この時間が短縮されればもっと自由にこの圏域の経済活動が活発になるかなと思っています。自治体の皆さんはその辺のことも村田製作所の進出に伴い、高速道路の無料化は、ほとんどが無料になっている中で、安来道路と松江道路、宍道松江、ここだけが有料で交通のネックになっていると思います。
会長	安来に住んでいる人が1番感じていると思いますが、いかがでしょうか。
委員	私はプロテリアルで働いていますが、従業員の中で1番多い苦情は県境の渋滞です。朝も渋滞しますし、夕方退勤時間もどうにかならないかというところは非常にありますので、無料化については是非していただければと思いますが、冒頭言われたように安来が通過点になってしまうのも懸念されますよね。
委員	委員も懸念していましたが、安来で集めなきゃいけないことはなくて、機能分担をし、家賃が安いからここに住んで松江や出雲に通ってもいい。逆に外から昼間は入ってきていただいて、村田で1,000人の雇用は、安来だけでは絶対賄えませんから、3割の人が家を建てれば十分だと思いますので、そこら辺で誰が声出すかという、やはり商工会議所から声を出してもらうのがよいのではないかと。今、米子の経済界の人と話して、いいよと言われる一方で、無料じゃなくても600円を200円にして、通行量が3倍に増えればといった話も出ています。そういう動きが出てくれば、メディアの方も応援したいとか、キャンペーンをやったり、シンポジウムを開いたりいろいろなこともできますが、私に動かす力はありませんので、誰かが言い出さないといけないと思います。
委員	私は伯太の東母里に住んでいます。私から言わせると安来は米子や松江にも近いし、言い方は悪いですが、伯太や広瀬には過疎があります。山佐、布部、赤屋はもの凄く雪がたくさん降っていました。30cmなら赤屋の方へ行くともう50～60cmありますが、安来に出るとないわけです。私からすると、安来は非常にいいと思います。赤屋とか12月にこちらに出てくるのが当たり前になってしまうので、若い人が出ていくのは当たり前だと思います。結局、安来だと不便も感じるけど、赤屋はこの計画にその辺はどう入れるかなということと、どんなものができるかなと今少し思っています。どういう仕掛けにすればいいのか。過疎対策みたいなものは、行政の人が1番知っておられると思います。
委員	市の行政の関係で、その万人に資源を配らないと、なかなかここだけにスポットをやってというのは難しいのかなと思いますが、この今の人口減

	の中で、1番今の策定として、どのセグメントの現象を入れようとされているのか、出さないようにされているのかは、戦略みたいなのはあるのでしょうか。
事務局	人口を維持するためには、自然減と社会減を少なくすることですが、自然減を少なくすることはなかなか難しく、社会減をなるべく少なくしていかないと、なかなか人口は維持できないです。特にさっきの雇用にも繋がりますが、20代、30代の子育て世代に転出を少なくしてなるべく入ってきていただくことで、お子さんを産んでいただける世代も増え、出生率も改善していくことに繋がるので、20～40代までをなんとか増やしていきたいところです。
委員	今資料を見直していますが、松江市と米子市に転出される方がそこそこおられ、そんなに離れていないのになぜかというところが1つあります。実際、私は東出雲が職場ですが、安来から通えるし、どうして出ていくのかがまず少し残念というか。やはりこの辺をまだ増やしていかないとけないということであれば、市役所などで戦略を考え、30～40代に刺さるようなものが1つ必要なのかなと思います。補足資料も見ましたが、若い子のところで「なぜ安来市に住みませんか」に対して「何もない」という回答があります。私も確かに学生時代は何もないなと思っていましたが、今この年になると別に何もないというか、別に不便はしていません。多分彼らの何もないというのは、大都市にあるものがないということだと思います。例えば東京とかがトップだとすると、安来市がチャレンジャーになってそこを追いかけるというのは絶対無理だと思うので、あくまで強みを生かしたところで特化させて、安来市はここだけが凄いいというのを出すべきなのかなという気はします。どうしても都会で住みたいという人はどうしようもないですが、高校生や大学生になったら、煌びやかなところに行きたいなという気持ちはあると思います。私は大学まで島根で、その後転勤で仙台に住んでいましたが、満員電車とか吐きそうになるぐらい気持ち悪くて、このようなところに住みたくないというような思いもありました。実際に学生が感じているところは、年齢とともに薄れていくとは思いますが、ただ、10年後、20年後は彼らがその主役になるはずなので、そこに訴求できるようなものも置きつつといった気はします。
委員	委員のお話を聞きながら、私は広瀬なので、結構雪が多かったり、あと三世代同居で嫁で来ました。少し前の山陰中央新報の人口流出の原因で「なぜ他のとこに行きたいか」について、女性が家のことをやらないといけないという考えが根深いといった意見が出ていて、私は嫁として凄くそれを感じています。例えば先程の米子松江に流出するのが通えないからではなくて、家を出たいからというものもあるのではないかと思います。前回

	の委員会の時も、サードプレイスがあるみたいな、安心感のある場所が家と職場以外にもう1箇所あると、田舎に住んでいても少し逃げ場があるという感覚になれていいのではないかなと思います。
副会長	私は京都出身なので、結婚でこっちに来ました。松江で子育てして、周りには誰も知り合いがいない。でも夫も忙しいので、これはお金で解決だと思い、当時は珍しかった家政婦さんを雇いました。松江だからその制度が一応なんとか生き残っていたみたいな感じで、そういうことがあるとやはり嬉しかったりもします。少しふと思ったのですが、先程、中学生や高校生はここに何も無いと言い、東京行きたいみたいな時に安来にいたら、米子空港までどうやって行くのだろうと思いました。松江だと米子空港や出雲空港行きのバスはあっても安来にはないですね。思った時に「行って来たらいいじゃん」とは簡単に言えない可能性があると思ったり。ただ、「ここにいてもできるじゃん」がなかったりもする。これは本当細かい点であって、今日の議論と関係ないですが、安来にいても全然できることが結構ポイントになってくるのかなと思って話を聞いてました。
委員	今の話を聞いていて、じゃあ本当に住むなら安来ということを考えた時に、いろいろな人にいろいろな思いがあり、今回この構想があって、その下に計画とかがひつついてきているところで、なかなかそこを絞りにくい部分はありますが、1つ共通しているのは、住みたい安来というか、住むなら安来というのをみんなで考えないといけないということは同じなのかなという気がしました。先程、副会長も仰ったように外国の事例で、変わった人が住む場所とか、安来という伝統文化もあるので、本当に壊してもいいのかとか、今までの地域の繋がりがみたいなことを、もう全くない場所にするのか。委員が言われたように、もっと自由な環境が住みやすいというものもあると思いますが、その辺をこのキャッチフレーズだったり、どこかに変えますみたいなメッセージを出すのか、それとも守るものは守っていくのか。同じことを書くと、どうなるのかみたいな感じがしますが、今後、この構想をどこかでまとめないといけないので、振り切るのか、総花にするのかみたいなところがありますが、その中心にあるのは、住みたい安来ってなんだろうということなのか。あとは、どんな感じでまとまるかなと考えていますが、そういうのを考えていきたいですね。楽しくてこっちにいていいなという。今時点では不便でしょうがないとかじゃなくて、ある程度何でも揃っていてそんなに不便じゃないです。逆に私は田舎の方が好きなタイプなので、のんびりとしたところで暮らしてというのはありますが、そういうことを考えて行きたいというようなメッセージがこの構想の中に入っていくといいなという感じがしました。

会長	住みたい安来をアピールできるようなインパクトのあるキャッチコピーになっていいかなということかなと思いました。若者がいないのは、私の娘のことを考えますと、モスバーガーが出来たけれどなくなったり、スターバックスもない。若者は割とそういうところを利用しますが、我々みたいに年齢が上の方はなかなか利用しないです。そうするとお客さんの数が少なくなって売り上げも上がらず、儲からなければなくなっていくみたいな流れが続いているような感じがします。あとは、安来に住まなくて米子や松江というのは、もしかすると固定資産税のことがあるかもしれないです。どこが安いのかと言った時に、安いところに行くみたいなことになってしまうかもしれないので、原因はそれぞれです。
委員	学校の方も減っており、この10年以内にはほとんど統合されるといよいよ山の方は過疎化が進むと思います。この資料を読んでもそういうことは一言も載っていないし、そういうものを作るのはいいけど、もう目の前に人口が減る施策が進んでいるわけですね。安来に定住すればいいですが、確かに人によっては大きくなると都会で生きてしまうかもしれないし、残るかもしれない。それは分かりませんが、こういう計画を作る段階で、10年以内には新しい学校を作ると我々は聞いていますが、行政はどうですかね。いずれは統合されるので、そういう懸念もあるなとも思っています。
事務局	基本構想の段階ではそこまで具体的に入らないです。
委員	そうすると基本構想は、言い方は悪いけど、綺麗な言葉は非常にいいですが、具体的にになっていくときにそこまで考えてみる。あなた方の仕事でないと言われればそれまでかもしれないけど、そこら辺はどうですか。
事務局	基本構想には、具体的な施策まではなかなかないので、その下にぶら下がる基本計画のところでは、仰ったようなことも教育分野には入ってくるだろうなと想定しています。
委員	正直夢がないですね。統廃合と言われて、田舎の家の人にはガクッと来ています。どうせ安来の中心部に学校が建つだろうと皆さん思っています。
委員	今言われたことは現実に来ることで避けられないし、そうなった時に、2060年、70年に人口20,000人になった時の町を考えて、それでも安来が無いといけないので、サステナブルな計画、今後どういう視点でやっていくかと言ったら、40年ぐらいは持続可能でみんなが暮らせる。そのためには行政コストをもっと減らさなきゃいけないし、この庁舎なんかも、こういうのがいいのか、松江テルサみたいに20年で取り壊すみたいな話ではなくて、ちゃんとメンテナンスをしながら50年、60年持たせる視点が行政に必要だと思います。行政に長期修繕の考えがどうしても今までな

	く、学校の補修もなかなかなくて、30 年経ったらボロボロになるみたいな話だったのを、60 年持たせるとか、そうやって次世代の負担をなるべく減らしていかないと、若い人は住まなくなると思います。その辺は賢く、次世代にツケを回さないような、エコとかサステナブルを理念に入れていけばいいと思うし、副会長が言われたブランディングとかプロモーションをどう入れればいいのかまだ分かりませんが、昔から思っているのは、鉄を打ち鍛え仕上げるで、そして何するかみたいなキャッチフレーズをやりつつ、エコ、サステナブルな視点を入れられた方がいいのかなと思います。よその行政がやらないのを先に手を打って横串にきっちり入れて、10 年の計画だけでも 40 年、50 年後も見据えた視点を今入れられたら、皆さんのお孫さんはきっと喜ぶと思います。
委員	安来の中でも、伯太や安田地区は人口が増えています。理由を聞くと、やはり昔ながらのしきたりみたいな繋がりがそんなにない。お祭りがあれば、宿をやる当番があって、煮物を作らないといけないとか、昔から大事にしてきた文化などはいいい意味では繋がりはありますが、若い人からすると、もう 30 歳で自治会長が回って来るところも出てきています。安来出身で、県外で勉強して、また帰ってこようかなと思って家を建てようと思った時に自分の地区で建てると、それこそさっき言った役が回ってくるから、あえて米子や松江に出ていく人たちも多いです。道も良くなり、伯太からだ米子まで 20 分ですので、あえて赤屋地区などに建てなくても、米子に建ててもいいのではないかと思います。SWOT 分析とかいうフレームワークも使うというのは非常に私も分かりますが、なかなかこれに現れない部分が、さっき言った弱点を探そうとする時なのです。この間、山陰中央新報のこだま欄に投稿させてもらいましたが、やはり答えは市役所の職員さんが持っていると考えていて、市役所の職員さんでも、実は安来に住んでいない方も一定数おられるわけです。それは家庭の事情とかあるとは思いますが、純粹に安来に住みたくなって、米子や松江、東出雲に家を建てた方々もおられ、いろいろな住みづらさがあると思います。でも、そこから出てくるのではないかなと。それで、5,000 人増やすにはどうしたらいいのか。SWOT とかフレームワークを使うよりも、もっと肌感覚でいいというか、直感で見えてくる方が、感情的な部分と言いますか、その方が直結しやすいかなと思います。それをなかなか政策に直結させることは難しいので、その中の下の具体的な施策の中に忍ばせていかないとと思います。私も 27 歳の時に安来に 1 ターンで引っ越してきましたが、あまり安来に住みたくないという思いが正直ありまして、その理由はさっきみたいなことです。なんでもすぐにいろいろなものが回ってきてやらされて、「このやり方変えませんか」と言ったらそれはダメだと。残すべきもの

	は残すべきですが、「やり方変えましょうよ」と言っても、誰もその答えを持っていないので、頑張っというようことを押し付けられてしまうと、これは本当にもう悪癖だなと思いますので、これが変えられるかどうかだと私は思います。若い人はもうそこにはメリットを感じていないので、それだったら米子みたいに新しい人たちを受け入れられるような町に住みたいという人たちが増えるのは当然だろうなとは思っています。
委員	私は境港出身で、今広瀬に嫁いで15年になりますが、安来と境港は人口にそんなに大差がないと思っています。ただ、面積が境港は平地で狭いが、安来は中山間地があって、安来、広瀬、伯太で住んでいる人たちが分散していることの違いを感じながら暮らしています。移住してきた方でも、中山間地が好きで移住してきて、自然景観が気に入ったからということで、都会から移住してきてらっしゃる方とかが伯太、奥田原とかには多いです。ただ、委員のお話で、どうしてもいろいろな役を負わないと、中山間地域の維持管理という、自治会で草刈りをやったりとか、それをせざるを得ない環境も暮らせば暮らすほど分かるし、そこの中での若い人ほどやるのがどんどん増えていく感じもあったりとかして、今後10年ってほんとにぼやっとしていたら、特に中山間地はそのまま尻すぼむ気がします。多分、先程の村田の話とかに戻って、具体的なことはあれですが、選べる良さみたいな、田舎が好きな人たちと便利な田舎が好きな人、もう自然どっぷりみたいな、日本昔話みたいなところに住みたい方たちもいらっしゃるの、川があって、子供たちが遊べるとか、本当に空気が綺麗というところを求めていらっしゃるのか、仕事場に近から安来に家を建てるみたいな。それを細分化することは多分難しいのかもしれないですが、選べるという選択肢ができてくるとこれから住む方たちにとってはいいのかなと思いました。
会長	居住区については、新しいところが出ていたりしてきてはいますが、そこにおいて、ある方々が県外からお見えになっているのか、市内からなのか、或いは今の中山間地域からこちらに出てきてお住まいになっているのか、いろいろあるのかなと思ったりはしますが、どちらかという市内の中から出てきて住まれる方が多いのかなと感じています。具体的な施策の中でそういったところは考えていかなければならないと思います。残り10分程度になりましたが、ここでは基本構想の方向性ということで、いろいろなご意見をいただきました。1つはどこでも通用するようなキャッチコピーではなくて、インパクトのあるものがあるといいのでは。何かそうしたものをプロセスとして公募という形みたいなことをしてもいいのではないかとご意見がありました。一方では、構想としてはもうやんわりとしたものにしかないのはいいのではないかと。けれど、その下の計画

	については、今の市の弱みをしっかりと見た上での構想を練っていただくのがいいだろうということでした。また、市内の昔からの保守的な部分をしっかり考えて減らしていくことが、新しい人たちが住むのに必要なことではといったご意見だったと思います。
--	--

5) その他

事務局よりあいさつ

6) 閉会



以上